



校長室だより

校長 山崎 聡子

日々の生活の中で

ぼくは、エルフィーにやわらかいまくらをやって、ねるまえには、かならず「エルフィー、ずーとだいすきだよ」って言ってやった。

「ずーと ずっと だいすきだよ」

(ハンス・ウィルヘルム：評論社)

私自身の話で恐縮ですが、現在、15年共に生活している愛猫に、事あるごとに「大好きだよ」と言って、頭をなで、一緒に過ごす時間を意識的にとるように心がけています。実は、もう一匹、17年間共に生活してきた愛猫がいましたが、令和4年9月9日に天に召されました。元気をくれたり、心を穏やかにしてくれたりする大切な家族の一員でした。いつもそばにいてくれることが当たり前で、生きている時間に大切だという思いをどれだけ形にして表してきたかなと考えさせられる日々でした。

この物語には、次の言葉が出てきます。

エルフィーがわるさをすると、うちのかぞくは、すごくおこった。でもエルフィーをしかっていながら、みんなはエルフィーのこと、だいすきだった。すきなら、すきとってやればよかったのに、だれもいってやらなかった。いわなくっても、わかるとおもっていたんだね。

生きている間に、もっともって頭をなであげればよかったな、遊んであげればよかったな、一緒に過ごす時間をもっともって増やして、「大好きだよ」「ありがとう」という言葉をたくさん伝えてあげればよかったな等と思っています。

今日が最後の日なら、どんな「ありがとう」を伝えたい？

目には見えないから、形にしなければ伝わらないもの。それが愛情。愛は名詞でなく、動詞。伝える恥ずかしさと、伝えられなかった後悔、味わうならどっちを選ぶでしょう？今日という日のうちに、思いを伝えることができるなら、自分の内側にある相手への気持ちを見えるようにしていきたい。

「いいんだよ、昨日までのこと全部。」

(田中 満矢：いのちのことば社)

結婚式での一場面。今後、どうありたいかという質問に対して、新郎も新婦も「10年経っても、20年経っても、感謝の気持ち出会えたこと、愛しているという気持ち、大切だっていう気持ち、一緒にいたいというその思いをちゃんと表現したい、言葉にしたい」と話されていました。思いは言葉や行動等で表現することで、灯がともされていくんだろうと思いました。

子供は、かけがえのない宝物。このことは、家庭・地域・学校の中で様々な形で表されています。様々なPTA活動、保護者の皆様や地域の皆様による登下校の見守り、絵本の読み聞かせ、ひまわり教室、おやじの会の活動、地域の中での触れ合いの場の提供等、多々あります。直近のことでは、おやじの会の方々が南門周辺通学路の草刈り、地域の方が遠足のバス乗り場に向かう通りの環境を整備してくださいました。感謝の思いと共に、大切な存在だからこそ温かな眼差しに包まれているということをお子供たちに伝えていきたいと思っています。